

検査予約時間の 6時間前から 絶食してください。
ただし、水、お茶、白湯などの水分は摂取するよう心がけてください

今回実施する検査は、“ヨード系造影剤”という薬剤を静脈に注射して行う検査です。この検査は、あなたの病気の状態を詳しく調べ、治療方針を決定するための大変な検査です。CT検査においては、造影剤を使わなくても行えますが、十分な診断が出来ないこともあります。正確で精度の高い診断を行うために造影剤を使って検査を行います。使用するヨード系造影剤は、比較的安全な薬剤ですが、一般の薬と同じように、まれに副作用が起こることがあります。副作用の種類は次のようなものです。

1. 軽い副作用として、吐き気、嘔吐、動悸、頭痛、かゆみ、発疹などが100人につき5人(5%)以下の割合で起こることがありますが、基本的に治療は必要としません。
2. 重い副作用として、呼吸困難（息が苦しくなる）、血圧低下（血圧が急に下がる）、ショック意識消失、心停止（心臓が止まる）など1,000人につき1人(0.1%)の割合で起こることがあり、通常は治療を要するため入院や手術が必要なこともあります。
3. これらの副作用は、以前にヨード系造影剤を使って副作用が起きた方、気管支喘息、心臓病の方では、一般の方と比べて副作用の発生する割合が高くなります。病状・体質によっては10～20万人につき1人(0.0005～0.001%)の割合で死亡する場合もあります。よって、ヨード系造影剤に過敏な方や気管支喘息の方には、原則使用できません。
4. 副作用の多くは検査後1時間以内に起こりますが、ごくまれに、遅発性副作用として遅れて見られることもありますので、帰宅後24時間程度の状態観察が必要です。また、検査後は水分摂取を多めにして、造影剤の尿への排出をうながしてください。
5. 造影剤は、腎臓から排泄されるため、腎臓の働きが悪い方では、さらに病状を悪化させることができます。
6. 造影剤注入直後、体が熱くなることがあります、直接的な刺激なので心配いりません。まれに造影剤が血管外に漏れ出し、注射したところが腫れて痛むことがあります、時間が経てば吸収されますので心配いりません。ただし、漏れた量によっては別の処置が必要となることもあります。
7. 以前にヨード系造影剤で副作用が出なかった方でも、今回、副作用が出ないとは限りません。

このように、重篤な副作用の発生する割合は非常にまれと言えますが、決して100%安全な検査ではないことをご承知下さい。ただし、検査は、万一の副作用に対して最善の処置を行う体制で臨みますので、異常を感じたときは、ためらわず検査担当職員に告げてください。上記の点をご理解頂き、十分に納得された上で 造影X線CT検査をお受けいただきますようお願いいたします。なお、ご質問がある方は遠慮なくお尋ね下さい。